

成人の日に思う

毎年この時期にこのタイトルで書いています。

今年は、教師をしていた最後の学年の生徒の成人式にご招待を受けました。

皆、立派になり驚きました。

一生懸命キャリア教育に取り組んでいた学年でした。したがって、「成人おめでとう」と共に20歳といえども人生の1/4～1/5しか過ぎていないので、これからも頑張るように激励しました。

また、平成4年、初めて中3の担任をしたときの卒業生から同窓会のお誘いを受け参加しました。

彼らは41歳になり、各分野で活躍しています。

こう思うと教員という職業の素晴らしさと共に、人の成長の素晴らしさも実感し、自らの足跡を振り返ることができました。

私も彼らに負けずに頑張らなくてはなりません。

さて、話はちょっとそれるかもしれませんが、前途洋々の若い学生に関するエピソードが有りましたので紹介します。

先日、近所の方から、ある話を聞きました。

戦前、私の自宅の向かいにある古い家に、第四高等学校の学生が下宿していたそうです。

私の住居は、西茶屋街の近くで、かつて金沢の遊郭があった場所です。思いもよらず、秀才が住み学んでいたことに新鮮な驚きを持ちました。



そして、その学生は、第四高等学校卒業後に東京帝国大学工学部へ進学し、当時の通信省へ奉職したそうです。そこまではよくある話なので普通に聞いていましたが、なんと彼は、電電公社最後の総裁で、昭和63年に第2代NTT社長、最後はNTT会長を務めた山口開生（やまぐち はるお）氏だったのです。

彼は、通信省時代に、終戦後壊滅状態にあった電話網の普及や、電電公社時代の1980年代には日米貿易摩擦を解消した方なのです。

昭和16～18年あたりでしょうか、そんな大きな仕事をした方の青春時代が、わたしの家の向かいにあり、彼はここで一心不乱に学んでいたものと想像されます。

今、学んでいる若い方は、将来いろいろな分野で働き、大小様々な功績を残すものと思われま

そう思うと、大人は、全ての子供たちに精一杯の思いやりと示唆を与えなくてはならないと考えま

私も60歳定年まで8年になります。今年も精一杯自分の持ち場で働きたいと決意した成人の日であります。